



中国日本商会

今どきコラムー97

中国雑談

### テスラの値下げとその影響

2021年新年早々、テスラは中国の消費者に「大盤振る舞い」をしてみせた。テスラ Model Y 長航続距離バージョンを 33 万 9900 円で売り出した。従来の予想最低価格を 14 万 8100 元も値下げしたのだ。テスラ Model Y Performance 高性能バージョンもこれまでの予想最低価格に比べて 16 万 5100 元安い 36 万 9900 元に値下げした。

この大幅値下げについて市場の反応は二極分化した。この直前に買ったオーナーは承服できずネット上に怨嗟の投稿があふれた。一方、多くの消費者にとっては望外の吉報であり、テスラの IP には予約が殺到し一時はマヒ状態だった。

テスラの値下げは競争他社を刺激した。蔚来 (NIO)、小鹏 (シャオペン)、理想 (リーシアン) 等の中国本土の新エネ車メーカーの株価も続けざまに上昇している。これは資本市場が新エネ車の先行きを好感していることを意味している。資本の支援はさらに多くの「弾薬」をもたらし、中国本土メーカーが技術開発、量産体制整備の面でテスラを追いかける上で大きな助けになる。

しかも、トレンドとしては、中国本土の新エネ車メーカーのブランド力のテスラとの差は縮まりつつあり、あるいは独自の競争カトーチカを構築している。例えば、蔚来はアフターサービスの良さに定評があり、多数のファン級のユーザーさえ擁している。また、小鹏汽車はテスラが値下げを発表したその日、2021 年に売り出す新規開発の量産車両にレーザーレーダーとして Livox 社製を搭載し、レーザーレーダー車の市場を席捲しようとしており、若者を引き付けている。



さらに興味深いのは、テスラが道を開いた価格戦の最大の勝者は同社自身ではなくそのサプライチェーンのパートナーかもしれない、という点である。

2020年12月29日夜、国内A株上場企業の四川雅化実業集団は次のように発表した。同集団傘下の完全子会社、雅安鋳（リチウム）業はテスラと電池用水酸化リチウム納入に関する協定に調印し、2021年から2025年、テスラに6億3000万ドルから8億8000万ドルの製品を納入する。この大型契約は雅化集団株の暴騰に反映した。

同時に、寧徳時代（CATL）もテスラの値下げ販促で利益を得た。2020年12月29日夜、寧徳時代は3件のプレスリリースを発表した。それはリチウムイオン電池生産基地建設あるいは拡張プロジェクトであり、総投資額は390億元近い。同社がこのような巨額投資を行うのはテスラの主要な電池サプライヤーの一つとして、テスラの電池需要増を見越したからである。

テスラの本土化が深化するにつれて、多数の中国の部品サプライヤーも受益している。例えば、福耀玻璃（フーヤオグラス）はテスラ米国と中国 Model Y 車のサプライヤーに選ばれたことを明らかにした。想像できるのは、テスラの生産、販売がともに活発化する局面、及び将来的にコスト抑制のために中国本土の部品調達比率を拡大する局面のどちらでも多数の中国側サプライチェーンの業績は上がる。

テスラの値下げは新エネ車の販促のための市場拡大であり、同時に国内新エネ車メーカーに対する「叱咤激励、内助の功」であり、一方で多くのサプライヤーに受益させ、間接的には中国新エネ車産業チェーンの成熟を支援し、中国を新エネ車強国に押し上げる。これら全てが歓迎する局面こそ、最初にテスラを誘致した時望んでいたのだった。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com